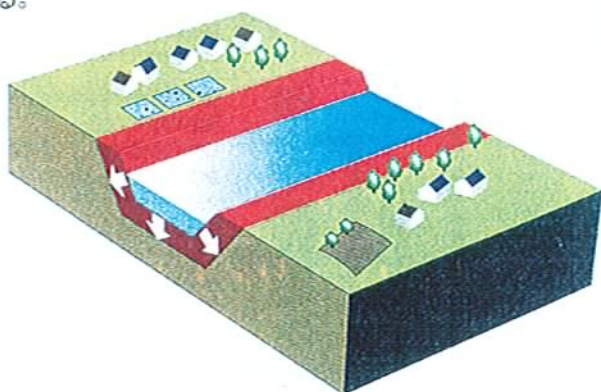


(5) 治水対策の考え方

治水の手法

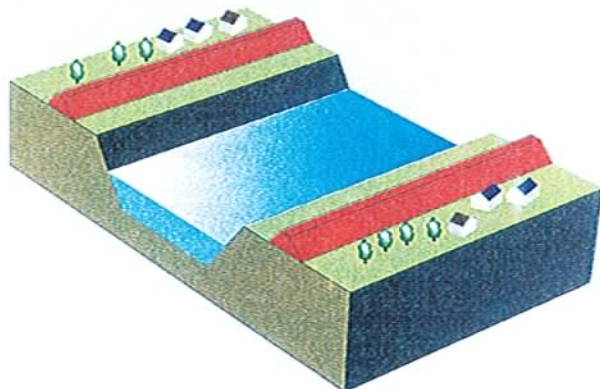
●河道掘削

河川を掘削して水の流れる断面を大きくし水位を下げる。



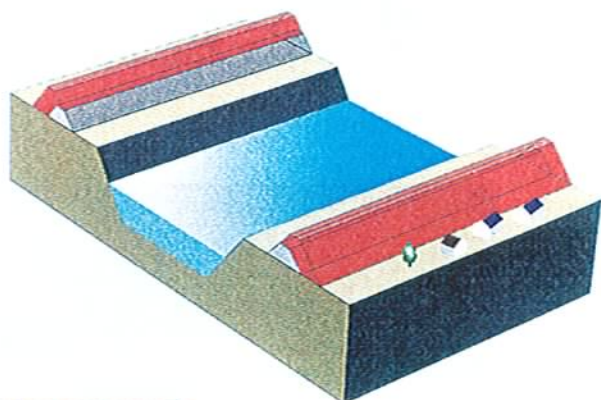
●築堤

堤防を造り水の流れる断面を大きくする。



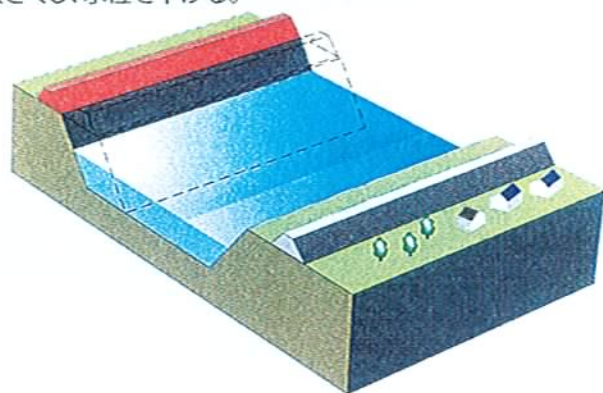
●嵩上げ

堤防を嵩上げし、河川の水の流れる断面を大きくする。



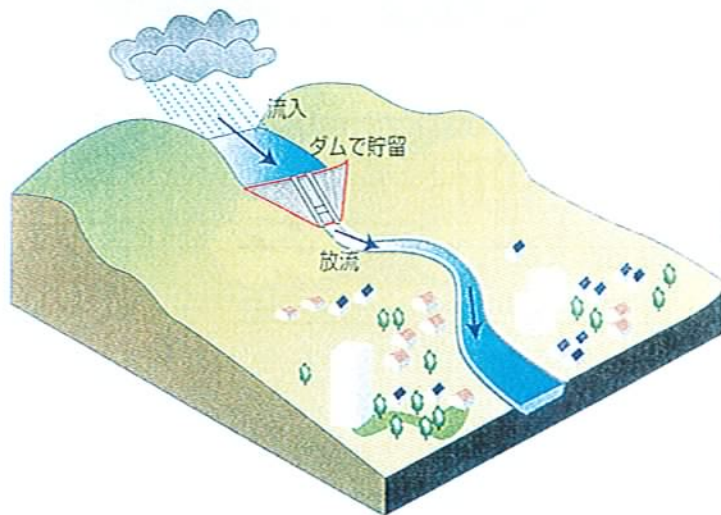
●引堤

川幅を広げることにより河川の水の流れる断面を大きくし、水位を下げる。



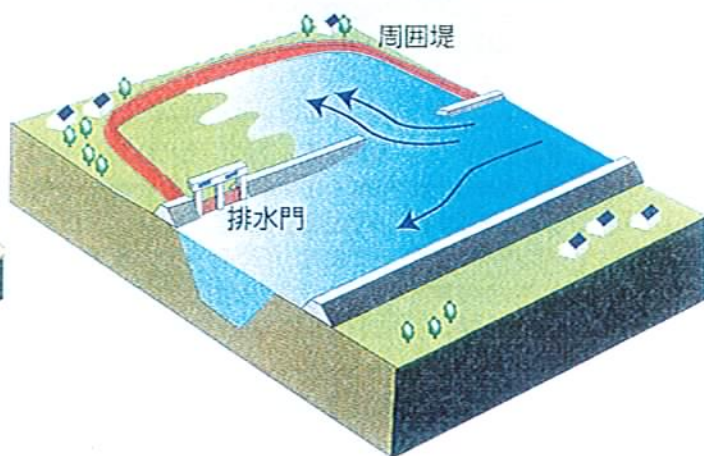
●ダム

ダムで洪水をためて下流の河川に流れる水の量を減らし水位を下げる。



●遊水地

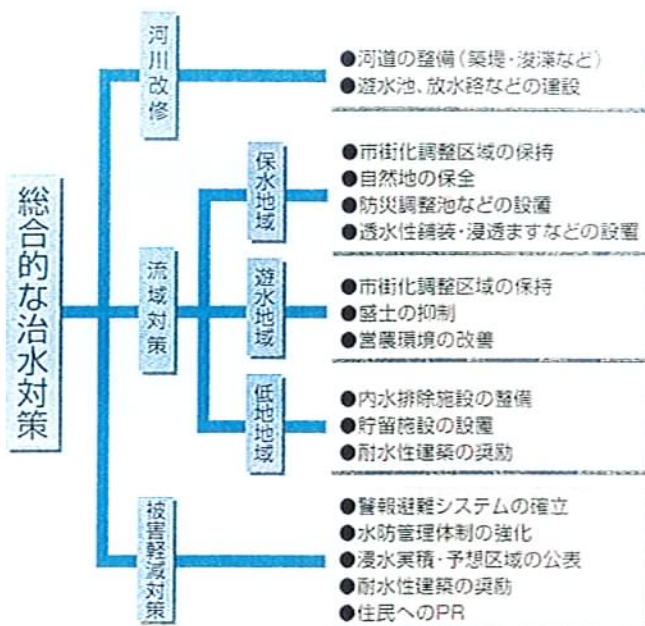
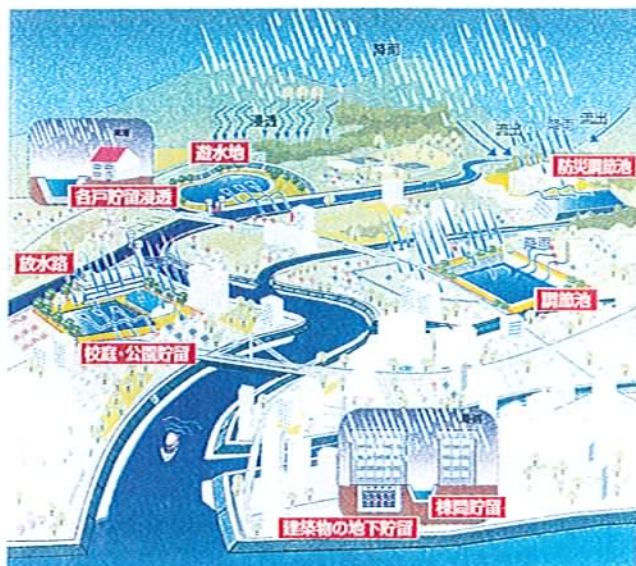
洪水で水が溢れそうになった時、遊水地で洪水を一時溜め河川の水位を下げる。



総合的な治水対策

都市部での治水安全度を高めるには河川改修の他に流域対策や被害軽減対策などの総合的な対策が必要です。

総合的な治水対策の概念図



流域対策

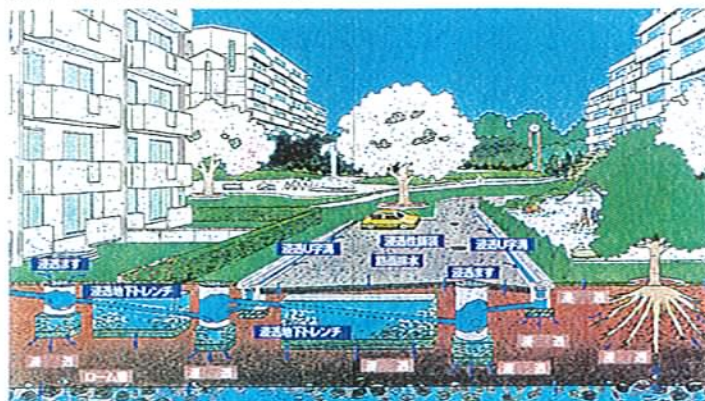


通常はテニスコートに利用している例
(霧が丘調節地・神奈川県)



水が溜まった様子 (昭和60年6月)

貯留・浸透施設の整備イメージ



都市化によって、地表がアスファルトやコンクリートで覆われ地面が水を吸収しにくく、保水能力が低下しています。浸透ますなど浸透施設を設置することによって雨水は地中に浸透。その結果、①河川への流出総量が減少 ②ピーク流量が減少 などの保水効果生まれ、河川への負担が軽減します。